

第1章 地域から世界にひろがる 北九州市民環境力の強化

第1節 環境活動と地域コミュニティ活性化の好循環

近年、環境問題に対する知識や関心は高まっていますが、地球温暖化などの地球規模での環境問題は依然進展しています。私たちは、地球規模の問題であっても、解決の出発点は「個人の生活」であることを認識し、一人ひとりがライフスタイルや事業活動のあり方を見直し、内発的・自立的に、より良い環境・より良い地域づくりを進めていく必要があります。そのために、地域の特色を活かして、市民・事業者・行政等の地域のあらゆる主体が力をあわせて環境活動に取り組むとともに、その活動の輪を広げていきます。

1. 北九州エコライフステージ

(1) 目的

北九州エコライフステージは、「世界の環境首都」を目指し、毎年市民団体や事業者などで構成する実行委員会を中心に、エコライフの浸透を目指し様々な環境活動に取り組むものです。

(2) 事業内容

平成22年度は、「そもそも、なぜエコなんだっけ?〜今からできる、あなたにできる“エコ探し”〜」をテーマに、約66万5千人の市民が参画し、155行事を実施しました。その主な事業は以下のとおりです。

ア. エコスタイルタウン

開催日：平成22年10月16日(土)・17日(日)

会場：北九州市役所横広場

内容

- それぞれの出展のテーマに合わせて、8つのテーマゾーンを設置
- 環境活動に取り組む団体による有機野菜を使った食のコーナー、環境商品の展示・販売、リサイクル工作教室など、日常生活に密着し、環境に配慮したライフスタイルを提案する出展
- マスメディアの参画によるステージイベント、番組の制作・放映



エコスタイルタウンの様子

- CO₂の削減が実感できる環境に配慮した会場運営の実施（デポジット制によるリターナル食器の利用、バイオディーゼル燃料や水素燃料電池による発電等）
- 小型電子機器等のリサイクル資源の回収
- 来場者や出展者に対してエコチェックを行い、集計結果を花の形にシールを貼る「エコつばな」の実施

イ. 地域・テーマ別事業

通年事業

会場：市内一円

内容

市民団体、企業、学校等の様々な環境活動を行っている団体を紹介することで、市民団体・企業間の相互交流による環境活動の拡大、ネットワークの広がりが生まれました。(154事業)

(3) 成果

エコライフステージは、参加者が年々増加しており、市民に環境の環(わ)が広がっています。

エコスタイルタウンでは、94団体、15万5千人の市民が参加し、市民団体・企業・学校等との様々な交流が行われました。また、「マイボトル・マイキャップキャンペーン」の実施(会場周辺の3店舗)や周辺の同時開催事業との連携を通して、地元地域への環境活動の広がりに貢献しました。

また、平成21年度から実施している「エコスタイルタウン3つの約束」では、ごみを出さない工夫、環境負荷の少ない電力の使用、フードマイレージの表示や地産地消の推進を行うことで、主催者・出展者・来場者が一丸となって環境に配慮した会場づくりに取り組みました。

※ フードマイレージとは、食べ物が運ばれてきた距離のこと。生産地から食卓までの距離が短い食べ物を食べることで輸送に伴って発生するCO₂の排出量を少なくして、環境への負担を小さくする考えに基づく。

(4) 課題

環境活動の交流を促進するツールとして、インターネットを活用した情報共有・交流のポータルサイト「北九州エコライフネット」をさらに使いやすくするための改善や適切な運営管理を検討します。また、地域・テーマ別事業のよりいっそう効果的な環境活動の情報収集を行います。

2. 北九州市民環境パスポート(キャンパス)事業

(1) 目的

北九州市民環境パスポート(略称:キャンパス)事業は、市民が楽しみながら環境活動に参加できるきっかけを提供するためのポイントプログラムです。環境に配慮した活動をした人が、活動内容に応じたポイントを取得し、そのポイントの特典と交換できる「頑張れば頑張っただけ得をする」仕組みです。

現在は、レジ袋削減運動を中心とした「キャンパスシール事業」を展開しています。なおIDカードを用いた「キャンパスカード事業」については、平成21年度で終了しました。

(2) キャンパスシール事業

平成18年7月の家庭ごみ収集制度の見直しを契機に、より一層の発生抑制(リデュース)を推進するため、消費行動の段階からごみの減量化を図ることを目的として、平成18年12月から全市共通ノーレジ袋ポイント事業「キャンパスシール」を展開しています。

参加店で概ね200円以上の買い物をした際に、レジ袋を辞退すると、シールが1枚もらえる仕組みにより、マイバッグ運動を推進しています。

レジ袋削減の取組は、直接ごみの減量化に結びつくだけでなく、レジ袋製造に使用される資源(石油)の節約や、CO₂削減による地球温暖化対策にもつながり、また、環境に配慮した消費者(グリーンコンシューマー)を育成するという効果もあります。

ア. 事業期間

平成18年12月1日～平成24年3月31日

イ. 事業のしくみ

〈シールの流れ〉

- 参加店は、消費者が概ね200円以上のお買い物をし、レジ袋の提供を辞退した場合にシールを1枚配布します。(参加店は事前にシールを購入しておきます。)
- 消費者は、所定の台紙にシールを20ポイント分貼り、参加店でのお買い物時に50円の割引券として利用できます。

- 割引分(50円)については、事業主体である北九州市民環境パスポート運営協議会から参加店に支払われます。(シール)
使用しているレジ袋の大きさに応じて1ポイントシール(2.5円相当)と0.5ポイントシール(1.25円相当)があります



ウ. 事業の特徴・役割分担

参加店はポイントシールを購入することで原資を負担しています。

行政は、運営・PRの部分を担当しています。

エ. 参加店舗の状況

◆参加状況(平成23年3月現在)

業種	参加店数	構成比
スーパーマーケット	105	37.8%
商店街	110	39.6%
百貨店	6	2.2%
個人商店	17	6.1%
家電量販店	8	2.9%
病院内売店	1	0.4%
ホームセンター	3	1.1%
ドラッグストア	28	10.1%
合計	278	100.0%

オ. お断り率

平成23年3月のレジ袋お断り率は20.3%でした。(当初の目標は20%以上)

※ お断り率(%) = キャンパスシール発行枚数 ÷ レジ通過客数 × 100

カ. 環境負荷削減の効果

事業開始から平成 23 年 3 月末までの間（4 年 4 ヶ月）にカンパスシールは約 7,600 万枚が発行されました。これにより、約 7,600 万枚以上のレジ袋が削減され、ごみ量としては約 760 トン^{※1}、二酸化炭素排出量は、約 4,560 トン^{※2} が削減されたこととなります。

※1 レジ袋 1 枚を 10g として換算

※2 レジ袋 1 枚で 60g の CO₂ の発生を抑制するとして換算

キ. 4周年記念事業の実施

「大都市減量化・資源化共同キャンペーン」と連携して、

平成 22 年 10 月に 4 周年記念事業を実施しました。

シール 10 ポイントを一口とし、抽選で 900 名にタンブラーをプレゼントしました。

ク. 今後の取組

本事業はアンケート調査（平成 20 年度市民意識調査）の結果、70%以上の市民に認知されるなど、生活に定着したものとなっており、レジ袋お断り率も当初の目標であった 20%を超えて推移しています。

今後は、市民・参加店の活動状況も踏まえ、レジ袋削減以外の環境活動にも利用していけるよう、検討していきます。

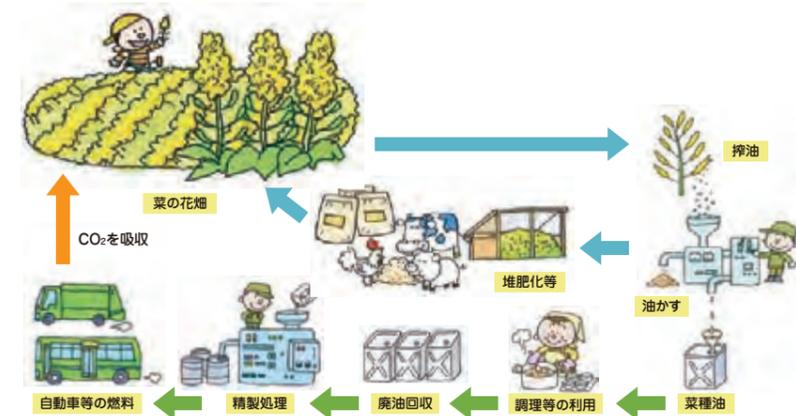
3. 菜の花プロジェクト

(1) 目的

本市では、平成 19 年度から、子どもから年長者まで参加できるエネルギー循環、地球温暖化を学習する取組として「菜の花プロジェクト」を推進しています。

菜の花プロジェクトとは、菜の花を栽培し、搾油し、食用油として利用した後、廃食油を回収し、BDF（バイオディーゼル燃料）などにリサイクルし、再び利活用する、地域の中で資源をつなぐというものです。

◆菜の花プロジェクトのエネルギー循環イメージ図



(2) 成果（平成 22 年度）

ア. 菜の花プロジェクト 2010 in 河内温泉

- ①平成 22 年 5 月 30 日 菜種の収穫・搾油体験・セミナーの実施：89 名（大人 62 名、小人 27 名）参加
- ②平成 22 年 10 月 9 日 菜の花播種体験・セミナーの実施：79 名（大人 58 名、小人 21 名）参加

イ. 菜の花プロジェクト推進事業費補助

- ① 3 団体 3,690 ㎡（平成 21 年度収穫分）
- ② 5 団体 4,890 ㎡（平成 22 年度播種分）

ウ. 種子配布（幼保小中学校、各種イベント）

40kg、10,000 袋を市民に無料配布



菜の花プロジェクト 2010 in 河内温泉



北九州グリーンヘルパーの会（小倉南区徳吉南）



塔野まちづくり協議会（八幡西区塔野）



北九州市を明るく元気にする会



北九州市農業協同組合（八幡西区笹田）



永犬丸の森公園 菜の花会

エ. 種子回収（区役所、環境ミュージアム等で回収）

約 330kg の種子を回収

(3) 今後の取組

平成 22 年の秋に植えつけた花が翌 4 月頃満開になり、5 月に結実、収穫体験を行いました。

本市では、搾油機を貸出するなどの支援を行う一方で、市内の食用油の回収場所（現在 47 ヶ所）を増やし、資源循環型の社会を築く取組として、菜の花で学ぶ環境教育を推進していきます。



菜の花プロジェクトをイメージした缶バッジ

4. 八幡東田グリーンビレッジ構想

(1) 背景

平成 13 年（2001 年）に「ジャパンエキスポ北九州博覧祭」が開催され、21 世紀における環境への取組のあり方について、様々な提示が行われました。その成果を活かし、本市が目指す「世界の環境首都」のモデルとなる環境配慮のまちづくりを進めるため、産学官民の協働で「八幡東田グリーンビレッジ構想」を取りまとめました。

一方、国においては、「全国都市再生のための緊急措置」において、「環境共生のまちづくり」を進めるためのモデルとなる提案を募集し、平成 15 年 6 月、本市が提案した「八幡東田グリーンビレッジ構想」が選定されました。この選定を機に、構想内容の具体化に向けた検討を行う「八幡東田グリーンビレッジ構想推進地域協議会」を設立し、平成 16 年 3 月に実施計画を策定しました。

(2) 八幡東田グリーンビレッジ構想実施計画

実施計画においては、6 つの取組を基本に据え、24 の推進プログラムを定めています。

取組	推進プログラム
① 共有価値の創造	1 北九州市民環境バスポート事業
	2 サイクル特区の構築
	3 カーシェアリングシステムの構築
	4 バス・トラック等大型交通（物流）の効率活用
	5 エコドライブ推進モデル事業
	6 アロハ・プロジェクト
	7 ローカルルールづくり
② 循環型エリアマネジメントシステムの構築	8 都市エネルギー管理システムの構築
	9 廃棄物マネジメント・システムの構築
	10 再生可能燃料（バイオエタノール混合ガソリン）の利用促進
	11 サステイナブル計画の策定
③ 街並み形成	12 街並み形成軸と歩行者ネットワークの構築
	13 東田グリーンビレッジ植林事業
	14（仮称）北九州オープン・エア・ミュージアム計画
	15 微気候形成プロジェクト
④ 快適な暮らしの創出	16 環境共生型住宅整備計画の策定
	17 シビック・コンビニエンス・センターの設立
	18 安全・安心のネットワークづくり
	19 「地球温暖化対策地域協議会」の立ち上げ
⑤ 協働を促進する拠点づくり	20 東田エコクラブを拠点としたパートナーシッププログラム
	21 交流の場と環境教育の場の提供
	22 サステイナビリティレポートの市民評価システムの導入
	23 東田サステイナビリティレポートの整備
⑥ 取組の発信	24 まちづくりPR

(3) これまでの取組と成果

ア. 環境配慮のまちづくりを支える基盤整備

・東田エコクラブハウスの建設（H16.3 整備）



パッシブソーラー（太陽光や風などの自然エネルギーを利用した工法）等を活用した環境配慮型の建築物で、環境保全活動を行う NPO 法人等の活動拠点等として活用しています。



カーシェアリング事業（H17.1 事業開始）

構造改革特区（市民力が創る「環境首都」北九州特区）認定の下、低公害車を共同利用することにより、環境への負荷を低減しています。



また、平成22年3月からは、電動自転車を共同利用するサービス事業も始まっています。

天然ガスコジェネ発電電力の地域内利用（H17.2 事業開始）

構造改革特区（北九州市国際物流特区）認定の下、電力供給者と東田地区内に立地する企業等が資本関係等によらない、密接な関係を構築し、環境負荷の小さい天然ガスコジェネ発電電力の地域内利用を進めています。



※コジェネ（コージェネレーション）とは、熱と電気を同時に供給することができる熱電併給のことで、ガスエンジン、ガスタービン、ディーゼルエンジンなどの原動機を使って発電を行いながら、同時に発生する排熱を給湯、暖房、冷房などに利用するシステムです。

環境共生住宅の建設（H21.3月竣工）

天然ガスコジェネ発電電力を利用し、170kW級の太陽光発電設備、高効率給湯器等の省エネ型の設備等を備え、カーシェアリングも装備することによりCO₂の排出量約30%削減を実現した環境共生住宅が竣工しました。この事業は、環境省「街区まるごとCO₂20%削減事業」に採択されています。



イ. 住民参加によるまちづくり

市民による花壇づくり活動

住民が花壇づくり活動を行い、うるおいのある地域環境づくりに取り組んでいます。

「八幡東田まちづくり連絡会」の活動

八幡東田地区に立地する企業等で構成する団体で、地域内の清掃活動など、地区内の環境保全活動に取り組んでいます。また、この連絡会は「八幡東田温暖化対策地域協議会」としての一面も有し、エコドライブの実践や事業所版環境家計簿の採用など、地球温暖化対策にも取り組んでいます。

(4) 今後の取組

これまでの環境配慮のまちづくりのための基盤整備や、地域住民や企業が主役となるしくみづくり等が、平成22年4月の国の「次世代エネルギー・社会システム実証」の地域指定へとつながりました。今後は、実証事業である「北九州スマートコミュニティ創造事業」を、八幡東田地区を中心に推進していきます。（7ページ参照）

5. わがまちの環境自慢

「わがまちの環境自慢」は、「世界の環境首都」の実現に向け、残したい自然・風景や環境活動に積極的に取り組む人などを発掘・認定し、PRしていくもので、市民提案に基づいて平成17年度から実施しています。

多くの市民から5年間（平成17～21年度）で2,084件の応募をいただき、認定された環境自慢に対して、認定証を贈呈しました。認定数は、平成21年度に目標としていた1,000件となりました。

認定された市民から「認定を受けて励みになる、これからも頑張りたい」「今まで北九州市にこんなすばらしいところがあることを知らなかった」などの声があり、市民の環境活動の環（わ）が拡がり、市民環境文化が浸透しつつあります。

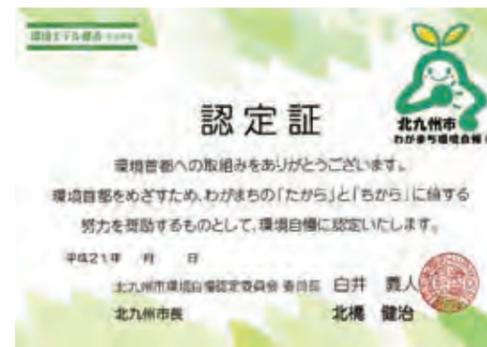
認定された環境自慢は、市内の環境情報のポータルサイトである「エコライフネット」などで市内及び全国に情報発信を行っているほか、今後、環境自慢の情報本として本を制作するなど、北九州市の環境首都づくりに活用させていただきます。

※エコライフネット <http://www.ecolife-net.jp>

◆わがまちの環境自慢の例



吉祥寺の藤（八幡西区）



わがまちの環境自慢認定証

6. まち美化に関する啓発

ごみのない清潔で美しいまちづくりを推進するため、市民・NPO、企業等と連携し、様々な啓発事業を実施しています。様々な取組により、「自分たちのまちは自分たちの手できれいにする」という市民の美化意識は高まっています。

今後も、誰もがまち美化活動へ気軽に参加し、環境美化について関心を抱くよう、PR・啓発活動を充実させ、市民全体のモラル・マナーの向上を目指します。

(1) 「クリーン北九州」まち美化キャンペーン

5月30日を「ごみゼロの日」として、この日の前後に清掃活動を行う運動は、昭和50年代に全国的に広まりました。

北九州市では、昭和58年に「ごみゼロの日キャンペーン」を開始し、平成3年からは5月30日～6月30日を「クリーン北九州」まち美化キャンペーン」として、市民・企業・行政が一体となってまち美化活動や啓発活動を行っています。



ア. まち美化清掃

各区に会場を設け、市民、企業、行政が協力・連携し、大規模なまち美化清掃を実施しました。

また、期間中、市内各地で地域団体やボランティア団体、企業等による清掃活動が行われました。

◆まち美化清掃（参加人数・収集量の推移）

年度	参加人数 (人)	収集量 (t)
平成18年	28,125	65.1
平成19年	29,955	77.5
平成20年	33,141	85.5
平成21年	34,435	112.3
平成22年	32,554	116.1

イ. ポイ捨て防止の呼びかけ

主要駅前での街頭啓発のほか、学校、企業、地域団体等の協力を得て、空き缶や煙草の吸い殻等のポイ捨て防止の啓発チラシを市内全域に配布しました。

(2) 「市民いっせいまち美化の日」

平成6年10月1日に「北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例」(まち美化条例)が施行されたことから、平成7年から毎年、10月1日～7日までを「清潔なまちづくり週間」と定め、さらに、平成8年からは期間中の日曜日(10月の第一日曜日)を「市民いっせいまち美化の日」とし、市民が地域の道路、公園、河川、海浜等を清掃しています。こうした市民参加型の行事を継続実施していくことで、まち美化意識の高揚と定着を図っています。

◆市民いっせいまち美化の日
(参加人数・収集量の推移)

年度	参加人数(人)	収集量(t)
平成18年	88,694	217.4
平成19年	90,103	245.7
平成20年	91,154	228.7
平成21年	93,517	227.5
平成22年	68,250	134.5



(3) 「クリーン北九州」百万市民運動推進協議会

まち美化活動が市民一人ひとりの生活習慣として定着し、北九州のイメージアップを図ることを目的として、平成元年に発足しました。

地域・学校・企業・ボランティアを代表する39団体が構成され、「5分間清掃」「ポイ捨て防止」「ごみの持ち帰り」の3つを運動目標に普及啓発活動を実施しています。

(4) まち美化推進員

平成6年10月に施行された「北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例」(まち美化条例)に基づき、「まち美化推進員」を選任しています。

まち美化推進員は、市と市民のパイプ役を果たし、地域のまち美化活動を牽引する役割を担います。(平成23年3月31日現在156名)

(5) まち美化促進区域

多くの市民の集まる駅前や観光地など、市のイメージアップ等の観点から特にまち美化が必要な区域を「まち美化促進区域」として指定しています。(11ヶ所)

区	まち美化促進区域
門司区	・門司港レトロ地区 ・大里柳校区駅前周辺地区
小倉北区	・小倉駅前地区 ・勝山公園地区
小倉南区	・朽網であい坂地区
若松区	・若松南海岸エルナード地区
八幡東区	・国際通り地区 ・帆柱自然公園
八幡西区	・黒崎地区 ・沖田地区
戸畑区	・戸畑駅前地区

(6) まち美化ボランティア袋

道路・公園・河川等の公共の場所をボランティアで清掃する市民に「まち美化ボランティア袋」を配布し、活動の支援を行っています。



(7) 「生活環境クリーン」サポート事業

地域団体やボランティア団体による自主的なまち美化活動に対し、環境センター職員の参加(市民との協働作業)や清掃用具貸出などの支援を行っています。

まち美化を通じて地域と行政の新たなネットワークを形成し、地域におけるまち美化活動の拡大を図り、清潔で美しいまちづくりを進めます。

(8) 北九州市環境衛生大会

環境・保健衛生活動に携わっている地域の関係者が集まり、お互いの連携を深め、今後の更なる事業推進・発展を期して開催される大会で、社団法人北九州市衛生総連合会と共に実施しています。長年にわたり環境衛生活動に貢献された方の表彰式も行われています。

7. ごみの減量化・資源化に関する啓発

循環型社会の形成を図るには、ごみの減量化・資源化を一層推進していく必要があります。そこで、市民一人ひとりの減量・リサイクル意識の向上を目的とした各種の啓発事業を行っています。

(1) エコライフプラザ

資源循環型ライフスタイルの啓発、グリーンコンシューマーの育成拠点として、平成14年11月にエコライフ

プラザをアジア太平洋インポートマート(AIM)ビル2階に開設しました。NPO法人に企画・運営を委託し、エコ商品の展示、販売、リユース品の販売、エコライフに関する情報の提供、毎日の生活に役立つ環境講座などを実施しています。(運営についての詳細は65ページ)



エコ商品の展示・販売の様子



講座の様子

(2) 施設見学

一般市民や小・中学生にごみ処理について正しく理解してもらうため、新門司工場、日明工場、皇后崎工場、日明・本城かんびん資源化センター、プラスチック資源化センターの見学会を実施しています。

■平成22年度 施設見学者数 16,105人



(3) 大都市減量化・資源化共同キャンペーン

平成4年度から、政令指定都市と東京23区の清掃事業担当部門が連携して、ごみの減量化・資源化に対する市民や事業者の意識啓発を図ることを目的とした共同キャンペーンを実施しています。

平成22年度は、オリジナルポスターと、マイタンブラーを製作しました。ポスターは公共施設や店舗等に掲出し、マイタンブラーは、レジ袋削減に取り組んでいる市民に抽選で配布しました。

(4) 「分別大事典」の配布

「資源」と「ごみ」の分け方・出し方を知ってもらうため、一目でごみの分類や出し方が分かる目次兼分別一覧表や、出し方に迷うものが簡単に調べられる50音順の分別早見表等を掲載した冊子を、区役所等で配布しています。



(英語・中国語・ハングル表記のものも作成しています。)

(5) 「かえるプレス」の作成・配布

リサイクルに関する情報の提供や、環境局の取組を紹介するために情報誌を発行し、各戸に配布しています。

■発行回数/年3回



8. 環境活動に関する各種表彰

環境問題を解決していくためには、市民一人ひとりが環境との関わりについて理解し、具体的な行動を起こしていくことが必要です。そのため、地域の環境活動に積極的かつ継続的に取り組んでいる市民・NPO、事業者等々のやる気を支え、効果的なインセンティブを付与するために、各種の表彰を行っています。



◆ 表彰の内容

地球温暖化防止	<p>○エコドライブコンテスト北九州地区表彰 環境省と（独）環境再生保全機構が主催するエコドライブコンテストに応募した北九州市内の事業所の中から、優良事業所を表彰。 平成22年度：市長賞 1団体 商工会議所会頭賞 1団体 環境局長賞 1団体</p> <p>○ノーマイカーデー活動表彰 全市的に取組みを行った「ノーマイカーデー」に関して、積極的に活動・協力していただいた事業所等を表彰 平成22年度：優良活動賞 1団体 感謝状 1団体</p>
	<p>○3R活動推進表彰 廃棄物の発生抑制（Reduce）・再使用（Reuse）・再生利用（Recycle）の3R（スリーアール）活動に積極的に取り組んでいる、市内で活動する個人、市民団体、学校、事業者などを表彰。ただし活動が営利目的のものは除く。 平成22年度：3R活動推進賞 9件 古紙リサイクル賞 6件 資源化・減量化優良事業所賞 6件 レジ袋削減特別賞 13件 レジ袋削減賞 42件</p> <p>○産業廃棄物優良処理業者 産業廃棄物処理業の許可業者を対象に優良処理業者を選び表彰。</p>
ごみの資源化・減量化	<p>○環境衛生優良地区（市長表彰） 5年以上にわたり、まち美化清掃、ねずみや衛生害虫の防除等の生活環境の改善を積極的に推進している地区を表彰。 平成22年度：7地区</p> <p>○環境衛生地区組織育成功労者（市長感謝状） 5年以上にわたり、環境衛生向上のため実践活動を献身的に指導している個人を表彰。 平成22年度：14名</p>
	<p>○北九州市まち美化協力功労者（市長感謝状） 5年以上にわたり、地域におけるまち美化意識の高揚や清掃活動など、環境事業に積極的に協力し、美しいまちづくりに顕著な成果を上げている個人・団体を表彰。 平成22年度：個人9名、9団体</p>
	<p>○「校区まち美化レポート」表彰（市長感謝状） 幼稚園、保育所、小・中・特別支援学校におけるまち美化活動について広く活動例を募り、顕著な取組を行っている学校等を表彰。 平成22年度：51校（園）</p>
	<p>○北九州市まち美化貢献者（環境局長感謝状） 道路、歩道、河川等の清掃や地域の公園、ごみステーションの美観保持など、清潔で美しいまちづくりの推進に貢献した個人・団体を表彰。 平成22年度：個人7名</p>
	<p>○まち美化</p>

9. 環境活動を行う市民・市民団体への支援・助成

市民や市民団体の自主的な環境活動を推進するとともに、その活動を通じた地域コミュニティの活性化を図ることを目的として、ごみの資源化・減量化及び自然環境保全等の環境活動を行う市民や市民団体への支援・助成を行っています。

今後も、市民や市民団体が環境活動に参加しやすく、取り組みやすい仕組みづくりを行っていくとともに、活動の継続と拡大を支援していきます。

(1) 集団資源回収団体奨励金制度

町内会、老人会、子ども会などの地域の市民団体に対し、古紙の回収量に応じて、奨励金を交付しています。

奨励金	保管庫やごみステーションを利用した方法	7円/kg
	回収業者が戸別回収を行う方法	5円/kg
登録団体数（平成22年度）	1,716団体	
古紙回収量（平成22年）	29,485t	



保管庫を利用した古紙回収

(2) まちづくり協議会地域調整奨励金制度

活動地域内の古紙回収の調整（未実施地域の解消、回収促進のPR）を継続して行うまちづくり協議会に対し、奨励金を交付しています。

奨励金	2円/kg（活動地域全体の回収量）
-----	-------------------

(3) 地域特性型（メニュー選択方式）市民環境活動推進事業

地域環境活動の拡大を図るため、剪定枝や廃食用油のリサイクル等の環境活動を自主的に行う地域団体に対する支援や「生ごみコンポスト化容器活用講座」等を実施しています。

支援メニュー	<ul style="list-style-type: none"> ● 剪定枝のリサイクル ● 廃食用油のリサイクル ● 生ごみのリサイクル
--------	--

(4) 電気式生ごみ処理機設置助成制度

家庭用電気式生ごみ処理機を設置する市民に対し、購入費用の一部を助成しています。

助成金額	購入価格（消費税等を除く）の2分の1で、限度額 20,000円（千円未満の端数切捨て）
平成22年度助成件数	71台

電気式生ごみ処理機の種類

家庭用電気式生ごみ処理機の代表的な処理方法としては次の通りバイオ分解式、乾燥式があります。



『バイオ分解式』

基材と生ごみを混ぜ、微生物の働きで分解を促進させます。微生物の働きで生ごみを水と炭酸ガスに分解し、約1/20にまで減容させることができます。



『乾燥式』

ヒーター等の熱源や風で生ごみの水分を蒸発させて乾燥し、約1/5にまで減容させることができます。

(5) 生ごみコンポスト化容器活用講座

平成22年度から、生ごみコンポスト化容器をうまく活用できなかった方や、新たに使用してみたい方を対象に、生ごみコンポスト化の基礎知識を学ぶとともに、実際の作業を通じてコンポスト化容器活用のコツや問題発生時の対処方法等を習得する「生ごみコンポスト化容器活用講座」を開催しています。



(6) 生ごみコンポストアドバイザー養成講座

平成22年度より、生ごみコンポスト化のノウハウを、地域に広めるための講師を育てる「生ごみコンポストアドバイザー養成講座」を開催し、生ごみの減量化・資源化を推進しています。



10. 公害防止に取り組む事業者への融資・助成

(1) 北九州市環境改善事業施設等整備助成制度[平成22年度終了]

ア. 背景

本市では、市域における大気環境の改善を図るため、平成7年度から、民間事業者が行う大気汚染の改善に資する事業に対して助成金を交付しました。

イ. これまでの取組と成果

助成の対象は、平成11年までの排出ガス規制に基づいた車両総重量2.5トン超の大型ディーゼル車を、排出ガスのより少ない最新規制適合車等へと代替を行った場合に助成を行うものです。

これまでにバス59台、トラック31台、塵芥車1台の代替に対し助成を行いました。

助成内容	購入する車両本体価格の3%
------	---------------

11. 環境家計簿等によるエコライフの推進

市民一人ひとりによる温室効果ガス削減に向けた取組として、家庭からの二酸化炭素排出量の削減を目的としたエコライフの普及啓発を行っています。具体的には環境に興味を持ち、エコライフを推進するきっかけづくりとして、環境家計簿の簡易版にあたる「エコチェックシート」やカレンダーに環境家計簿とエコライフを紹介した「エコライフカレンダー」を配布し、より幅広い年齢層へエコライフ実践の呼びかけを行っています。



エコチェックシート



エコライフカレンダー（2011年版）



12. 地産地消の推進

(1) 目的

近年、地域で生産された農林水産物をその地域内で消費しようという「地産地消」の取組が全国的に広がっています。北九州市でも、市内産農林水産物の消費拡大や生産者と消費者との顔の見える信頼関係づくりを目的として、「地産地消」を積極的に推進しています。

(2) 地産地消と環境との関わり

地産地消を進めることは、環境面でもよい影響があるといわれています。

市内産農林水産物の消費が増え、市内で健全な農林水産物が営まれることが、農地、山林や海を健全な状態で守っていくことにもつながります。

また、外国など遠方からの食料輸送には、CO₂の大量発生など環境への負荷がかかります。輸送する食料の重量と輸送距離をかけたものをフードマイレージといいます。地産地消を進めることはフードマイレージの低減にもつながります。

(3) 主な取組

ア. 市内産農林水産物の消費宣伝

北九州市農林水産まつり等のイベント実施や地産地消パンフレット配布などを通じて、市内産農林水産物の消費宣伝を行っています。

イ. 学校給食への食材供給

北九州市学校給食協会、教育委員会、農業協同組合と連携して、市内産野菜を学校給食で積極的に使用するよう取り組んでいます。

ウ. 地産地消サポーター

生産者、消費者、飲食店、販売店などによる情報交換や交流を行うことで地産地消を進める北九州市地産地消サポーター制度に取り組んでいます。



13. 家庭・事業所への無料省エネルギー診断の実施

(1) 目的

家庭や事業所を対象に、エネルギー使用量や設備管理に係るアンケートや現地調査を無料で実施し、現状の問題点を認識してもらい、省エネ方策をアドバイスすることで、省エネ行動や省エネ改修など、二酸化炭素排出量削減への取組につなげることを目的としています。

(2) これまでの取組み

北九州商工会議所と連携し、診断事業に取り組んでいます。平成22年度は76件の診断を実施しました。

(3) 今後の取組み

平成22年度に診断を実施したもののうち、民間事業所の13件が改修に向け検討を進めています。

今後も、より多くの家庭や事業所に省エネ診断を実施していただき、それをきっかけとして、省エネ行動や省エネ改修につながるよう取組を進めていきます。



無料省エネ診断募集チラシ

14. 市民活動の紹介

里山保全
北九州グリーンヘルパーの会

「街に緑を、心に潤いを」というスローガンのもと、タケノコの名産地の合馬で荒廃した竹林を整備して、雑木林を復元させる活動を行っています。伐採した竹は、竹細工の出前教室やそうめん流しのイベントで利用しており、地域の子どもたちや高齢者に喜ばれています。また、休耕地を活用した無農薬野菜作りなどにも取り組んでいます。



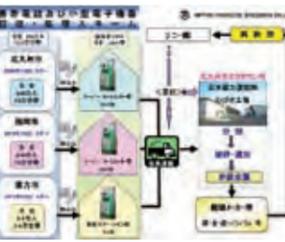
北九州ドリームサミット2010
北九州青年会議所

市内の中学生の参加を募り、このまちの将来について自ら考え、行動して問題を解決するというプロセスを体験しています。先輩からの想いを受け継ぐ「継承会議」、環境をテーマにこのまちの問題点を解決する「個別活動」、それらを集約し広く発信するための「本会議」、「発進会議」の4つを柱として事業を実施しました。また、全体活動として、北九州空港にひまわりの種約5,000粒をまく活動を行いました。



リサイクル事業及びリサイクル実証実験
日本磁力選鉱 株式会社

使用済の小型電子機器や携帯電話を回収し、金、銀、パラジウムなどの資源を抽出して再利用しています。また、リチウムイオン電池からリチウム、コバルト、ニッケル、マンガン等を回収する基礎試験を行っています。資源のない日本でレアメタルを確保し、資源循環型社会へ技術で貢献します。



環境家計簿
北九州市婦人会連絡協議会

持続可能な低炭素社会に向け、「小さな一歩が、大きな百歩・百万歩へ」となるよう、暮らしの中からCO₂の削減を目指した取り組みを行っています。平成22年度は、538世帯が環境家計簿をつけ、家庭から出るCO₂排出量をチェックしました。併せて、買い物袋の持参運動も行いました。今後もこのような活動を継続し、より多くの人に環境に関心を持ってもらうよう働きかけていきます。



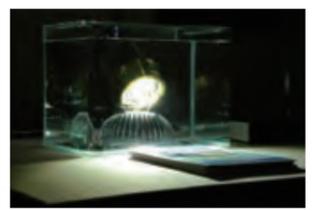
植樹事業
響みどりの会

後世に美しい森と水を残し、私たちが将来の子どもの生活を守ることを目的として、植樹や里山体験などの活動を行っています。響灘の埋立地を緑の多い市民の憩いの場とするため、これまでに70,000本あまりの松を植えてきました。また、コスモス街道に植栽したハマボウは、ここ数年、黄色い可憐な花を咲かせています。今後も積極的に市民と協働していきたいと考えています。



ひびきのLEDアプリケーション創出協議会
財団法人 北九州産業学術推進機構 半導体技術センター

LEDは以前からイルミネーション等で利用されてきましたが、昨今の技術開発により照明としての実用化の動きが加速しました。今後は、医療や農業・林業分野、水産・畜産分野の他、水質改良や環境分析などにも応用が見込まれています。LEDに関する研究開発の支援と研究チームの情報交換の場の提供等により、新産業の創出を目指すとともに、低炭素社会の実現に貢献します。



CCFL照明「ソラナ」
株式会社 豊光社

環境にやさしいCCFL(冷陰極管)を採用した照明「ソラナ」の製造、販売を行っています。CCFLは、これまで液晶テレビのバックライト等で使われてきましたが、一般の蛍光灯に比べて寿命は6倍と長持ちで、消費電力量を40%、水銀含有量を70%削減できます。植物育成、高演色、紫外線など特殊な分野の製品ラインナップもあり、LEDより安く製作できます。



環境創造ツーリズム
特定非営利活動法人 北九州サステナビリティ研究所

環境に関連するテーマを設定し、施設・自然・人を訪問・視察することにより環境について考えてもらうことを目的として、「環境創造ツーリズム」を開催しています。平成22年度は、響灘ビオトープや白鳥展示館、岩屋海岸など若松地区を回るバスツアーを開催し、現場ごとに活動している人の生の声を聞き、北九州の水と生物多様性の関係について学習しました。



ブラック・イルミネーション&キャンドルecoナイト in 北九州2010
公益財団法人 北九州活性化協議会 もったいない総研

冬至に事業所や家庭の電気を消してCO₂を削減するよう呼びかける「ブラック・イルミネーション」を実施しました。また、門司港レトロ口地区では、約1,000個の手作り再生キャンドルを配置し、イルミネーションを消して訪れた観光客とともにキャンドルへ点灯しました。旧門司税関内では合唱団が賛美歌を歌い、来場者と一緒に静かなひと時を過ごしました。



レジ袋無料配布中止の取組
エフコープ生活協同組合

環境保全や資源の有効活用のため、レジ袋の無料配布を中止し、レジ袋使用の削減に取り組んでいます。事業者と組合員が一体となり環境啓発のイベントを行うなど、組合員の参加意識を高めることで、平成22年度のマイバッグ持参率は62.9%に達しました。今後もこの取組を拡大することで、多くの人が環境に関心を持つきっかけにしたいと考えています。

